

彙 報

本会記事

西南アジア研究会総会

2010年度総会は、先の会告のごとく、2010年12月11日午後2時から、京都大学文学研究科・文学部新館第5講義室において開催された。

間野英二会長の開会の挨拶に続いて、井谷鋼造氏を議長に選出し、議事に入った。まず久保一之委員から、会誌発行状況、会員数、会計等の会務についての報告が行われ、ついで、会計業務について、総会開催以前に堀川徹監事（当日は欠席）の監査を受け承認されている旨報告された。その後、間野会長より、今年度から井谷鋼造氏を編集委員に加えたこと、および庶務委員の退任（篠田知暁、岩本佳子、小倉智史、古泉真悟）と新規委嘱（法貴遊、田中悠子、山本孟）について報告された。

総会議事の後、東海大学文学部教授 春日晴郎氏に「日本に所蔵されるいくつかの古代イラン関係銘文付き資料について」と題してご講演いただき、最後に濱田正美委員の閉会の挨拶をもって終了した。

会費納入のお願い

本誌第73号発送時に2010年度会費（第73-74号相当分）および滞納金をご請求申し上げたところ、多くの方からご協力が得られました。誠に有難く存じ上げます。

しかしながら、いまだご入金いただいていない会員の方も、少なくありません。第73号発送時にご通知した、会費納入状況をご確認の上、早々にお払いいただけるようお願い申し上げます。

ご投稿のお願い

より充実した誌面をお届けできますよう、会員の皆様の活発なご投稿をお待ち申し上げます。論文、研究ノートや書評に限らず、研究動向・学界動向その他、有益な各種情報もお寄せ下さいますようお願い申し上げます。投稿規程は本誌第73号末尾に最新版を掲載してありますので、原稿作成の際ご参照下さるようお願い致します。

『西南アジア研究』投稿規程

I 投稿先 西南アジア研究会 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部内

II 原稿

- 1 原稿は横書きとし、同じ内容の電子ファイルを使用ソフト名明記の上添付すること。ただし手書きの場合は、200字詰原稿用紙に横書きとする。
- 2 論文は注を含め400字詰原稿用紙60枚程度、研究ノート・研究動向は30枚程度を上限とする。
- 3 論文等すべて1号限りで完結するものとし、連載はしない。
- 4 採否は編集委員会が決定し、手直しを求めることもある。
- 5 原稿は返却しない。ただし図については、投稿時に申し入れがあれば返却する。
- 6 投稿者は本誌の体裁にしたがい、以下の書き方に統一すること。
 - a. 第1頁に表題・氏名、第2頁にその英訳、第3頁以下を本文とし、注・文献表を含めて通し頁をうつ。
 - b. 章はローマ数字、節はアラビア数字（算用数字）で示す。ただし章節の表題の有無は自由である。
 - c. 注は別紙おこしとし、本文の後ろにつける。注の書き方は次のとおりとする。
 - 1) この場合、帝王の叙任は……
どちらともいえない。
 - d. 出典と引用頁のみの注記は本文中にする。参考文献を [Fussman 1978: 94-98]、あるいは [HS: 25] として本文中の当該箇所末尾に入れる。なお94-98、25などは引用頁である。
 - e. dによって生じる文献表をつくり、別紙おこしで注の後ろにつける。筆者姓ABC順とし、欧文、和文、中文を混記する。中文は拼音による。書式は、下のIVのとおり。
 - f. 雑誌などの略号は本誌の表紙うらの方式にしたがうこと。単行本・雑誌は、欧文ではイタリック指示、和・中文では『 』に入れ、論文表題は括弧をつけず、裸のままにする。巻数は算用数字とし、号数は（ ）に入れて、3(1)、4(3-4) [3, 4号合併号の場合] などとする。Vol., Partなどの表示はしない。なおロシア文字はイタリックを用いない。
- 7 以上により、文字原稿は、表題・氏名、英文表題・氏名、本文・注、文献表より成る。

III 図の原稿

- 1 本誌ではアート紙・折り込み図表は使わない。
- 2 したがって版面13×20cmを考慮すること。
- 3 図はそれぞれ別紙に作成し、通し番号をつけ、各図の天地を明確にすること。
- 4 たとえば図3などが複数の写真などで構成されるときは、版面に入るよう考慮のうえ、出来上り図を作成すること。個々の図は、図1からの通し番号とする。
- 5 図の説明文（キャプション）は図に記入せず、B5版200字詰原稿用紙に書き、他の文字原稿の末尾につけておくこと。
- 6 本文原稿に図の挿入箇所を明示すること。原稿頁の右下に「図2挿入」などと朱書きし、出来上りの面積（ 5×8 cm）、頁における位置（上下左右など）を指示すること。
- 7 そのままで版下になる図をつくること。場合によっては、別途に経費を申しうけることがある。

IV 文献表の書き方

参考文献

IB:

DAI: (引用した資料の略号, および表紙裏に記載していない雑誌などの略号をアルファ

GAR: ベット順に配列し, コロンに続いてフルタイトル表記)

Tr. Id.:

Ackemann, H. Ch. (1975) *Narrative Stone Reliefs from Gandhara in the Victoria and Albert Museum in London: Catalogue and Attempt at a Stylistic History*. Rome.

Allchin, F. R. (1968) Archaeology and the Date of Kanishka: The Taxila Evidence. In: Basham, A. L. (ed) *Papers on the Date of Kanishka*. Leiden, 4 - 34.

Bühler, G. (1894) The Bhattiprolu Inscriptions. *Epigraphia Indica* 2, 323 - 329.

Burgess, J. (1970) *The Buddhist Stupas of Amaravati and Jaggayyapeta in the Krishna District, Madras Presidency, Surveyed in 1882* (rep ed). Varanasi.

Errington, E. (1987) Tahkal: The Nineteenth-Century Record of Two Lost Gandhara Sites. *BSOAS* 50(2), 301 - 324.

Gelder, J. M. van (tr) (1963) *Mānava Śrautasūtra Belonging to the Maitrāyaṇī Samhitā* (1985 rep ed). Varanasi.

Kurita, I. (1988) *Gandharan Art I: The Buddha's Life Story. Ancient Buddhist Art Series I - II*. Tokyo.

Kuwayama, Sh. (1994) The Horizon of Begram III and Beyond: A Chronological Interpretation of the Evidence for Monuments in the Kapiśi-Kabul-Ghazni Region. *EW* 41 (1 - 4), 79 - 120.

Le Berre, M. & D. Schlumberger (1964) Observations sur les remparts de Bactres. *Monuments pré-Islamique d'Afghanistan. MDFAFA* 19, 61 - 105.

Marshall, J. (1914) Sha-ji-ki-Dheri. *Annual Report of the Director-General of Archaeology, Archaeological Survey of India I, 1911 - 12*. Calcutta, 11.

Marshall, J. (1918) *A Guide to Taxila*. Calcutta.

Marshall, J. (1936) *A Guide to Taxila* (3rd ed). Delhi.

Marshall, J. (1951) *Taxila: An Illustrated Account Archaeological Excavations I - III*. Cambridge.

Marshall, J., A. Foucher & N. G. Majumdar (1940) *The Monument of Sāñchi I - III*. Delhi.

安藤志朗 (1985) ティムール朝 Shāh Rukh 麾下の中核 amīr 『東洋史研究』 43(4), 4 - 11.

乘山正進 (1987) 『大唐西域記』(訳注) (『大乘佛典』 中國篇 9) 林檎社.

佐藤 長 (1979) 『チベット歴史地理研究』 岩波書店.

曾 問吾 (野見山温訳) (1945) 『支那西域経緯史』 上 東光書林.

田原 正 (1978) 六朝建築の設計規準 山本五郎 (編) 『中國科學史研究』 平凡社, 39-66.

西南アジア研究 第74号 2011年3月25日印刷 2011年3月30日発行

編集兼発行者 京都大学文学部内 西南アジア研究会 会長 間野英二

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 電話番号 075-753-2784/~2830

年会費 一般会員(機関会員を含む) 4,000円 学生会員(大学院生を含む) 2,000円

振替口座 01080-7-19867 印刷者 明文舎印刷株式会社 京都市南区吉祥院池ノ内町10
